

「今日は放送ないんですか？」

4校時終了のチャイムが鳴ると同時に「手動の♪ピンポンパンポン♪」でお昼の校内放送が始まります。本校は教職員の給食がありませんので、校長が検食をしてから給食の気付きや注意を伝えます。校長不在の時は、代わりに教頭先生、事務長先生が校内放送を行います。ちなみに教頭先生はDJアジアジ、事務長先生はDJヨッシーと名乗っていて、子供たちはそれぞれの変化も楽しんでいるようです。給食については、「味噌汁には黄金だしが使われていておいしいです。」「今日のサラダは少し酸っぱいですが、体を元気にしてくれます。」

「こんにゃくは薄く切ってあるけれど気を付けて食べましょう」等々・・・できるだけ詳しく食べるのが楽しみになるように心がけています。本校の給食は、鶴南特別支援学校で調理をして運んでいただいています。世界の料理ツアーや全国味めぐりシリーズなど食べながら学べる給食で、毎日添えてある一口メモを紹介するのも楽しみの一つです。お昼の放送では、ほかにも子供たちや先生たちからのリクエスト曲を流したり、誕生日の人の紹介やクイズを出したり、祝祭日の前日であればその意味や由来についても触れるようにしています。

前置きが長くなりましたが、先日、非常食の日の出来事です。その日は検食がなく音楽のリクエストも入っていなかったことから、お昼の放送をお休みして早々と教室を回り、子供たち一人一人が非常食を食べる様子を見て声を掛けていました。すると、最後の方の教室に入った途端、少々困り顔の担任が「〇〇さんがお昼の放送を待っていて、放送があるまで食べないと言っています！」と教えてくれました。〇〇さんを見ると何度もスピーカーを何度も指しています。このままでは、食べる時間がなくなると、放送休止の理由を必死に説明したのは言うまでもありませんが、今日は給食がないという思い込みを大いに反省し、同時に日々のルーティーンではあるけれども、ちゃんと子供たちの心に届いていることのうれしさと感謝の気持ちを強く感じた出来事でもありました。

少し話は変わりますが、毎日の積み重ねが心に届くという話を紹介します。

『雨の日の水やり』をご存じでしょうか。ある人が小さな高原の村を旅行していた時のこと、その日は雨がしとしと降っていたそうです。ふと見るとおじいさんが花壇の花に水やりをしていて、旅人は「雨が降っているのに水をやっても意味がないんじゃないですか」と声を掛けました。すると、おじいさんは、「わしは、花に心をやっているんだよ。雨が降っているかいないかは問題ではないのだよ。」と答えたそうです。日々を大切に、当たり前のことを当たり前と思わずに礼を尽くし思いやることで、人（植物も）は生活への楽しみや張り合い、希望をもつのだと感じた「今日は放送ないんですか？」でした。



（西山）